

# 2018年度 自己評価結果

関東学院六浦こども園

## 1、 関東学院六浦こども園の教育と保育

### ◎ 教育・保育理念

神さまに創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

### ◎ 教育・保育目標

・主体性 ・思いやりの心 ・創造性

### ◎ 教育・保育方針

- ・キリスト教の精神、即ち学校の校訓である「人になれ奉仕せよ」の精神をもって、毎日の保育をしていきます。
- ・食事、睡眠、排泄、清潔などの基本的な生活を大切に、一人ひとりに丁寧にかかわり、ありのままの姿を受けとめる中で基本的信頼感を育みます。
- ・喜びや悲しさ、くやしさをしっかり経験する中で自分の思いを表し、他者の思いに気づきながら、自分づくりを積み重ねていけるよう子どもの心に寄り添った援助をしていきます。
- ・子どもたちの好奇心や興味をかきたて、生活や遊びが豊かに広がり学びが深まるような環境構成や援助のあり方に配慮し、異年齢のかかわりを積極的に行います。

## 2、 本年度の重点事業目標及び計画

### ① 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

外部講師2名による定期的な園内研修会をはじめ、他こども園との共同研究会など内外で研修、研究に充実して取り組みます。また昨年度に引き続き、他こども園との共同研究を行うことで、「こども園」の課題を明らかにし、その対応を検討します。共同研究については、2018年度保育学会での発表を計画しています。保育者が自身の保育実践を語り他者の保育実践に耳を傾ける、対話的な園内研修会を行うことにより、本園の保育の質の向上を目指します。園内のプロジェクトの研究活動を、キャリアパスの仕組みづくりにつなげていきます。子どもたちの非認知能力を高め、豊かな学びにつなげるために自然に触れる機会を充実し、「木育」活動や自然に強い保育者の育成に取り組みます。

### ② アートを取り込んだ教育の推進

今の時代に必要な豊かな感性や主体性、自ら環境に働きかけて創り出す力を育むために、アートを取り込んだ生活と教育を推進していきます。素材環境を整え、様々なモノと対話する中で、その人らしい表現が引き出されていくプロセスを大切にしたい教育を展開していきます。また、子どもたちの発見や探求を支え行為の意味を読み取ることのできる保育者の育成を目指し、学びの機会を充実します。生活の中のアートを保護者や外部にドキュメンテーションや作品展示により伝えることで子ども理解につなげ、本園の特長としていきます。乳児保育においても日常的にアート活動を取り入れ、発達に照らし合わせた子どもたちの感じる心の事例を月間保育誌に連載します。また、優れた教育実践現場の視察を実施し、本園の更なるアート教育の推進と充実につなげます。

### ③ 子どもたちの意欲を高める園庭と室内環境の構築

家庭や地域で経験できないことが体験でき、自分とは違う人と出会う中で育ち合うことのできる環境づくりを推進します。子どもたちが本来持つやりたい気持ちが引き出され、挑戦し、仲間と夢中になって遊ぶ中でしなやかな心身が育まれることを願い、魅力ある室内環境や園庭づくりに取り組みます。園庭の冒険遊び場化、生き生きと遊べる室内の空間づくりを、DIYを駆使しお父さんの会と教職員が協働して取り組むことで、子どもの持つ力と育ちを一緒に考え合い学び合う場とします。手作り遊具の制作過程や子どもたちの活動の様子をその目的や意味も含め発信し、また講演会などを行うことで活動の意味を伝え、保護者の理解と協力につなげていきます。お父さんの会と教職員が園庭研究会に参加し学びを深め、更なる進化につなげます。

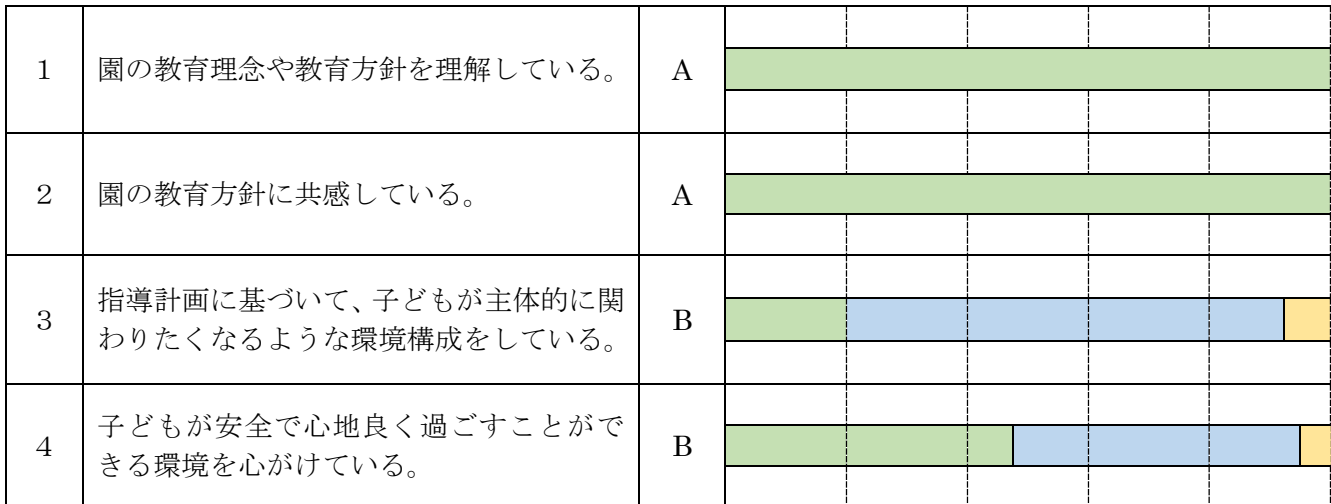
### 3、 評価項目の達成及び取り組み状況

下記の項目について、教職員にアンケート調査を実施し、その結果を表にまとめ自己評価としました。また、その結果をもとに、園運営や教育活動の総括と来年度の改善に向けての課題等をまとめました。

#### I 保育の計画について

A :  できている B :  だいたいできている C :  あまりできていない D :  できていない

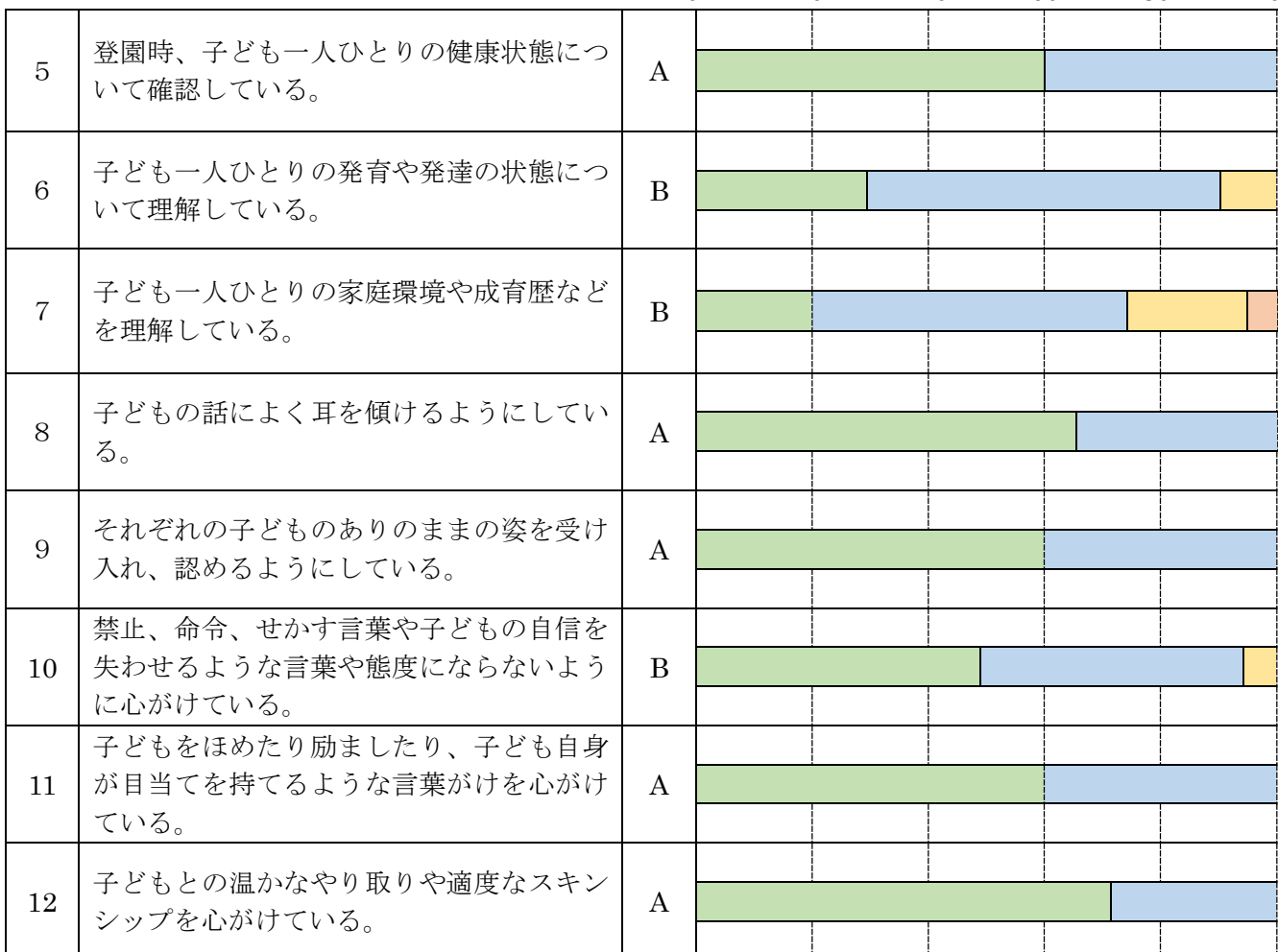
0                  20                  40                  60                  80                  100%

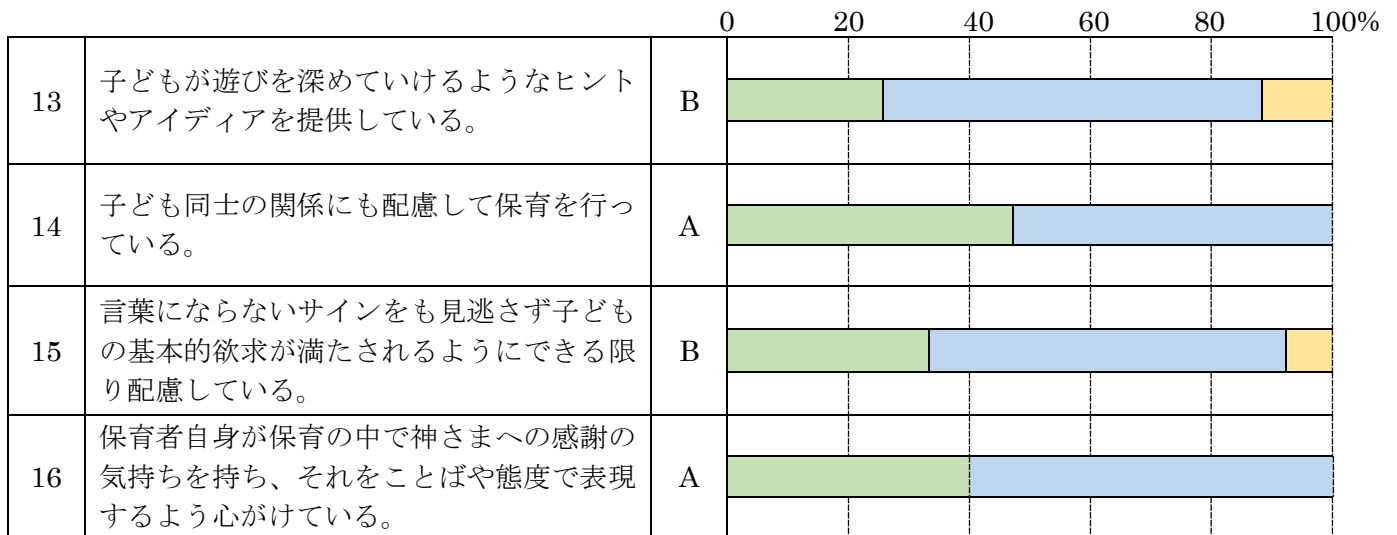


#### II 子どもへの対応について

A :  できている B :  だいたいできている C :  あまりできていない D :  できていない

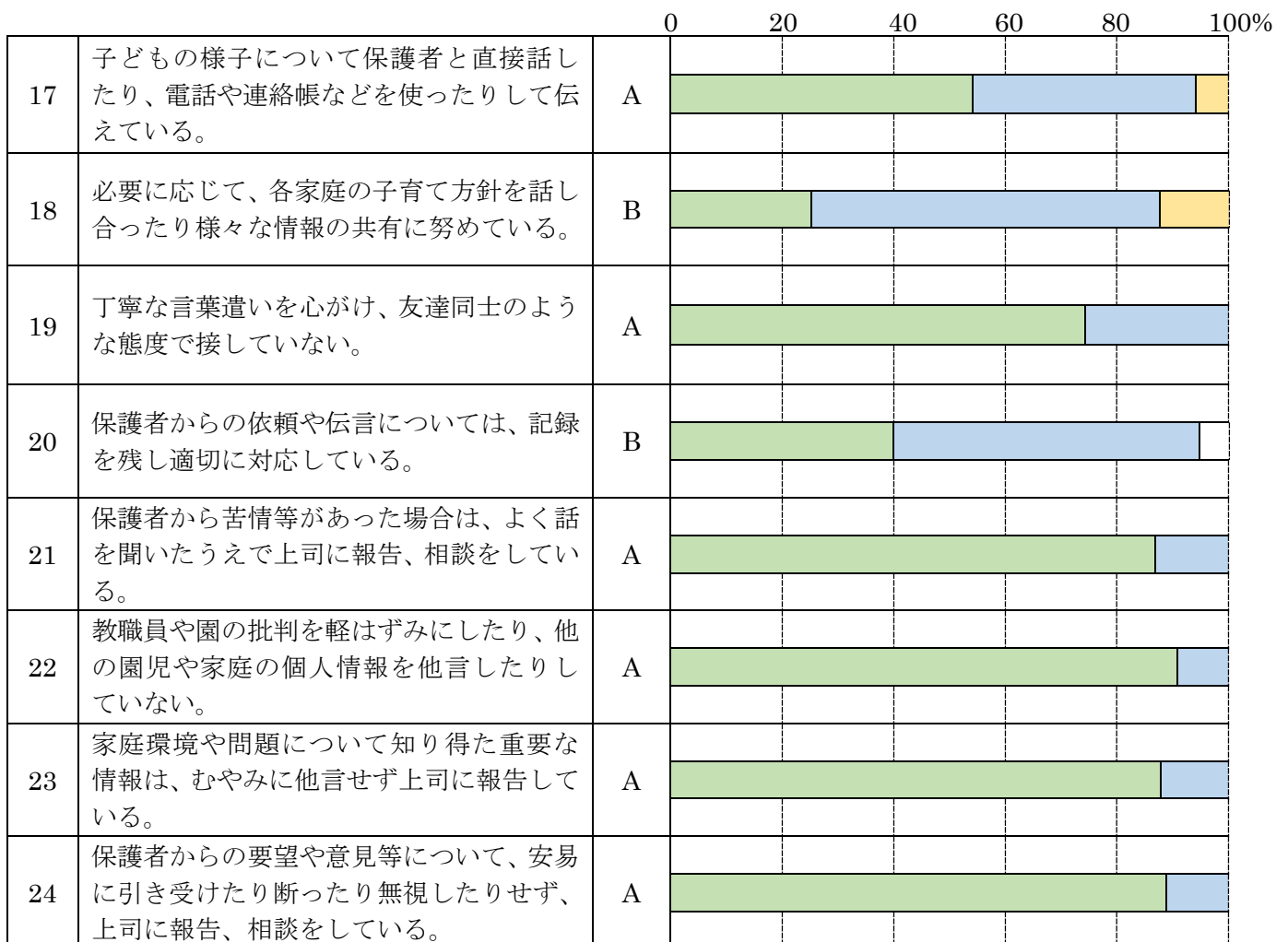
0                  20                  40                  60                  80                  100%





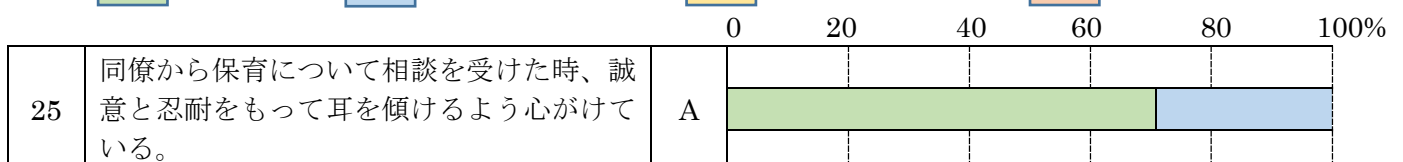
### Ⅲ保護者への対応について

A : できている B : だいたいできている C : あまりできていない D : できていない



### Ⅳ職場のコミュニケーションについて

A : できている B : だいたいできている C : あまりできていない D : できていない



		0	20	40	60	80	100%	
27	同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的にコミュニケーションを取るよう心がけている。	A						
28	上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。	A						
29	職場環境の改善に必要と思うことがあれば、適切な場で発言や提案をしている。	B						

## V 資質向上について

A : できている B : だいたいできている C : あまりできていない D : できていない

		0	20	40	60	80	100%	
30	保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。	A						
31	園内の遊具や教材の使用法や危険性について理解している。	B						
32	常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。	B						
33	子どもや保育、教育に関する情報を日頃から得ようと努力している。	B						
34	職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心がけている。	A						
35	服装、髪型、身だしなみ等、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。	A						

## ◎ 評価項目の達成状況と今後の課題

### I 保育の計画について

概ね、達成している。

今後も教育理念について教職員間の共通理解を図り、安全で子ども主体の保育を実践していく。

### II 子どもへの対応について

概ね、達成している。

神さまの愛の中で、子どものありのままの姿を受け入れ認める保育を実践している。

これからも一人ひとりの良さが引き出される保育を展開していく。

### III 保護者への対応について

達成している。

保護者からの相談や要望があった場合、上司に報告、同僚と相談した上で対応している。

今後も出来る限り、各家庭の子育て方針を把握した上で、密に連携を取っていく。

### IV 職場のコミュニケーションについて

達成している。

職場のコミュニケーションは良好である。

これからも保育の質の向上のためにチーム保育に取り組んでいく。

## V 資質向上について

概ね、達成している。

保育者としての自覚や身だしなみ、言葉遣いに関しては意識が高い。

今後更に、遊具や教材研究、教育・保育情報の取得に努めていく。

## 4、本年度の重点事業の評価

### ① 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

外部講師 2 名による定期的な園内研修会をはじめ、他園との共同研究会など内外で研修、研究に充実して取り組むことができました。その成果は保育学会、食生活学会、食育学会、こども園フォーラム他で研究発表、実践発表を行いました。また、横浜市主催のリーダー育成研修会において本園で公開保育を行い、良い評価をいただきました。自然教育を推進していくにあたり、木育インストラクター、保育ナチュラリストの有資格者は合わせて 33 名となりました。資格と学びが保育に生かされ、子どもたちの豊かな自然体験と学びにつながりました。優れた保育施設への視察やキャリアアップ研修も計画通り行いました。

### ② アートを取り込んだ教育の推進

大学連携及び芸術士によるアート活動が盛んに行われました。乳児のアート活動については月刊保育誌「保育とカリキュラム」で連載されました。また、研修会を実施し、保育観の共有とアート技術のスキルアップにつなげました。イタリア レッジョエミリアへの海外研修が行われ、現地との動画を交えた情報交流会も大好評でした。レッジョエミリアでの学びは保育環境、内容に生かされ、子どもの姿や作品に表され、ドキュメンテーションを通して保護者にも日々伝えられました。東京藝術大学のプログラムに参加したのを契機に、東京藝術大学教員学生とのコラボレーションで「花みこし」の制作を行い一緒に活動しました。この模様はタウンニュースで紹介されました。

### ③ 子どもたちの意欲を高める園庭と室内環境の構築

お父さんの会と保育者が協働して、子どもたちの意欲と主体性が育まれると園庭と室内環境づくりに取り組みました。手作り遊具のメンテナンスをはじめ、縁台やベンチ、室内のコーナー木製しきりや乳児室 2 ヶ所にロフトが誕生しました。子どもたちの遊びが充実し、挑戦的意欲が育まれています。園庭研究会や先駆的施設の見学研修も行われ、そこで得た学びと示唆が本園の改造に大いに活かされています。

## 5、本年度 研究・実践発表

- ・ 第 71 回保育学会発表 (お茶の水女子大学こども園との共同研究)
  - ① 『発達の連続性に根ざした 保育の在り方についての検討』  
～こども園における 2 歳児 3 歳児の保育実践から～
  - ② 『発達の連続性に根ざした 保育の在り方についての検討』  
～こども園における 2 歳児 3 歳児保育の実態調査から～
- ・ 第 34 回食生活学会 『食育活動の実践報告』
- ・ 第 13 回食育学会 『食育活動の実践報告』
  - ① 『認定こども園における食育活動の実践報告』  
～看護師・管理栄養士の専門性を活かして～
  - ② 『子どもの生活習慣と便秘』 ～便秘を改善する食生活～
- ・ 第 3 回お茶の水女子大学こども園フォーラム 分科会で実践発表

## 6、本年度 本園の保育実践が掲載された書籍

「子どもの『やりたい!』が発揮される保育環境」 学研出版

「子どもが育つ遊びと学び—保幼小の連携・接続の指導計画から実践まで」 朝倉書店

「子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方」 フレーベル館

保育月刊誌 「保育とカリキュラム」 0・1・2 歳児の造形がはじまるとき に連載 ひかりのくに